

作業所学会分科会 記録者用 事例・活動報告書

記録者名： 小野 直子
 （事業所） 特非）かざぐるま

発表者名： 安間 孝明
 （事業所） NPO 法人
 トータルケアセンター

役 職： 施設長

役 職： 代表理事

【発表事業所の概要】

事業区分	
定 員	
活動内容	

【支援・活動対象者の概要】

性 別	
年 齢	
障 害 の 種別・特性	

【支援・活動事例の概要】

目 標 ・ 目 的	触法障害と呼ばれる方の支援 トータルケアセンターでは就労系の支援、グループホーム等を運営し、様々な障害を持った方々を支援しながら法律を犯してしまった方の支援も行っています。人手不足や体制の脆弱性などを自覚しながらも、目の前の困っている人の受け皿にならねば誰がこの人を・・・という思いで事業を行ってきました。今回はその中でも対応に苦慮した事例を通して、専門家や関係機関とのかかわりを紹介したいと考えております。 「人を変えるのは難しい」という現実も含め、今回の発表の機会に法を犯してしまった障害者の方への支援の輪が少しでも広がっていくことを目的とします
内 容 ・ 経 過	① 「触法障害者」との出会い 福祉関係者の静岡市城北の静岡刑務所見学会 ② 「触法障害者」は誰が生み出すのか 社会の歪みが生み出したのではないか ③ 「触法障害者」を福祉関係者が受け止める 試行錯誤の日々、失敗の連続 ④ 高木先生の呼びかけ、大石弁護士と相談事業所との勉強会参加 法律の仕組み、更生支援計画の作り方等学ぶ 連携の重要性、司法へのアプローチは弁護士の協力 ⑤ マレーシアの牧師と話して気が付いたこと 自分の力で人を変えようとしていたのでは・・・ 人が人を変えることはできない ⑥ 一つの取り組み『みらいカフェ』 法人職員の学びの場 相手を知る、受け止める、支える 責めない技術 一緒にお茶タイムが必要 赦しの重要性 富樫先生 司法の力がどうしても必要

結果・課題	〈結果〉 人には、人を変えることは出来ないと知ること ① みらいカフェの究極は受容と自らの気づき ② 障がいのある人にとっての生きづらさを知る 大切なことは、人垣を作り、社会的空間軸でスパイラルに広がる幸せ度数 ＊本人の気づきで幸せ度数も広がる ③人には出来ないがハイパーパワーには可能 ③ 支援の人垣をより多くする。法人全体への広がりから更なる拡大へ みらいカフェにより多くの職員が体験すること その人の人格を大切にすること ④ 正しい自尊心を取り戻す 自分の価値に気が付く 自らの気づきを持つことの大切さ
--------------	---

作業所学会分科会 記録者用 事例・活動報告書

記録者名：
(事業所)

発表者名： 鈴木 美絵
(事業所) プランセンターひくま

役 職：

役 職： 管理者兼相談支援専門員

【発表事業所の概要】

事業区分	
定 員	
活動内容	

【支援・活動対象者の概要】

性 別	
年 齢	
障 害 の 種別・特性	

【支援・活動事例の概要】

目 標 ・ 目 的	<u>地域で暮らしにくさを感じる方の支援</u> 相談支援専門員は障害福祉サービスの利用をしている人を担当していますが、一人ひとりの生活は様々です。今回は一般的に困難さが高いと思われる「家族に緊急事態が発生した場合の対応事例」「家族ではなく、制度（重度訪問介護）を活用しての地域生活事例」の事例提供を行い、ご本人を中心とした地域支援体制について改めて知る機会になるとともに、地域での資源活用、資源開発に繋がっていききたい
	① 区分 6 で行動障害点数が高い生活介護ユーザーAさんの生活 20代男性、自閉、多動、知的、行動障害点数18以上 発語難しい 意志が強い したいことがしたい 体調崩しやすい 食欲のムラ 気分変動が大きい 眠っている時以外は見守りや付き添いが必要 ADL面でのケア 切れ目のないケアが必要 <結果・課題> 本人を中心に、本人理解、意思を想像して外出企画 本人が気分が乗らない時は、あきらめて無理強いはいしない 本人を中心にチームで細やかな支援をしている チームで途切れのない支援をしている 医療との連携、参加も多い 福祉のプロは少ないが、本人のプロが多い
内 容 ・ 経 過 結果・課題	② 家族と生活をしているアラ 8050 のBさんの家族にピンチ発生 40代男性、重心、自閉、身体、知的、行動障害点数10点以上 日頃は両親がケアを担っている、生活が成り立っている 母親が腰を痛めてしまい動けなくなった 本人が望んでいない生活が発生 緊急一時支援を検討中だった 今後の課題が複数発生 <結果・課題>

8050 にむけて

- ・事業所の選択探す 居宅介護、重度訪問介護
- ・通所の事業所の送迎
- ・入浴の介護を福祉担当（通所先、ヘルパー）
- ・短期入所を増やす、ロングショート検討
- ・後見人申し立て

③ 就労 B を生活費にしているシンママユーザーさんとお子さんの生活

30 代女性、子供と 2 人暮らし、自閉、双極性

本人の思いや、本人らしく生きるをどう支えていくか

<結果・課題>

本人、関係者の慣れやスキルアップ

実現に向けて、一つ一つ制度や資源確認を行う

本人関係者のつながりを増やし、実践を行いお子様との生活を支えていく

④ 推し活が大事で土日の仕事は休みたい人就労 B

推し活が仕事への励みになっている

<結果・課題>

工賃を増やして推し活をもっと楽しみたい

作業所学会分科会 記録者用 事例・活動報告書

記録者名：
(事業所)

発表者名： 大橋 正季
(事業所) 浜松協働学舎
社会福祉法人 ひかりの園

役 職：

役 職：

【発表事業所の概要】

事業区分	
定 員	
活動内容	

【支援・活動対象者の概要】

性 別	
年 齢	
障 害 の 種 別 ・ 特 性	

【支援・活動事例の概要】

目 標 ・ 目 的	強度行動障害と呼ばれる方の支援 社会福祉法人ひかりの園では、いわゆる強度行動障害と呼ばれる方の日中活動や暮らしの支援をしています。そうした方々の、主に暮らしについての実践報告、そうした特異な施設文化が生み出してしまう弊害についての抗い、現在進行中の入所施設の地域移行などについて事例提供を行います。一方で、親御さんが高齢になっても受け入れ先が見つからない方からの入所希望を伝えられますが、全てにお応えできないのが実情で、ずっと歯がゆい気持ちを抱えながらの実践です。
内 容 ・ 経 過 結 果 ・ 課 題	福祉施設の中で問題として扱われてしまうケースの何割かは〔文化の問題〕かも。 その文化をどう創っていくのかのささやかな実践の話。 「場」へのアプローチ 「母子同服」・個人へのアプローチだけでなく環境へのアプローチも必要 ・環境には職員も含まれる。そして文化も含まれる 「場・環境」への実践 ・まずは問題行動、不適切な行動というラベル➡「何が問題で何が不適切かということ」はその場所の「文化」＝「常識」によって規定される ・「福祉施設」というある種特殊な文化 「福祉施設の文化」のネガティブな側面 日課中心主義、協調性が大事、イレギュラーは嫌 個別支援を謳い文句に、特別扱いはダメという平等主義 生産性で人を分ける制度 24 時間管理しないと支援者が不安になる傾向 医者言うことは絶対、健康神話と安全神話 本人のためというお題目での管理 支援者はプロフェッショナルとして振舞わなければいけない 「どうしてうまれるのか」 ① ハード（建物）から生まれる無意識 効率的な管理ができる建築⇒無意識化で管理が仕事

内容・経過 結果・課題	② 特定のメンバー以外が入らない構造 365 日安定した環境が当たり前⇒固定化、独自の文化 ③ 利用者さんの「意思決定支援」 安定した暮らしを送りたい⇒来客いない、友人いない、出会いの喪失 ④ プロフェッショナルとしての責任感 ○○しなければならない、という責任 <結果・課題> ハード面（建物）へのアプローチ 大きな施設をやめる プライベートとパブリックのあいだとなるスペース➡1 階が大人の放課後デイのイメージ 集団生活が苦手な人に無理させない個別小スペース➡2 階居室 利用者と支援者とだけの世界でいいのか ・それはとっても安全で、効率的 ・支援する側支援される側だけの関係 ・すぐに出来上がる日課・プログラム ・この利用者のこの行動はこうという決めつけ ↓↓↓ 日課をやめる、利用者も一緒にやる 「利用者と一緒の哲学カフェ」 いろいろな人が参加（利用者・職員・外部の方々） *利用者さんたちは意外と柔軟かも *日課は職員のためにあるのかも 今年はさらに日常にも入ってもらう 4 人のアーティストによるワークショップシリーズ グループホームに一晩泊まったらこんなん出ました 日常の写真 音楽 アート 利用者さんの趣味披露 etc
------------------------	---

【意見交換】

<ケースの質問>

Q・就労 B 知的 一人暮らし 補佐人 ➡ グループホームの見学までは行くが、その後が続かない

A いろいろなグループホームの見学をする

一人で生活するためのヘルパーを入れる

検討会に本人も入れて状況等把握する機会を作る

Q 就労 B 週 3 日 日中介護 GH 週 2 日 腎臓→訪看ケア

A 今後のケアに在宅医療の利用検討

プロフェッショナル 先立つことをしてしまう 手を差し伸べる

Q 8050 問題 統合失調症 ショート利用時嫌なことがあった、本人も拒否

父親も介護でいないと困る 父親も拒否

A 必要な時にいてくれる職員

その人に合ったトライを試してみる

介護移動販売している話

・本人はおはぎを 2 個買う 職員は担当医に確認して 1 個なら OK

自分に置き換えてみると、糖尿病予備軍、食事等気を付けてと言われているが好きなものを食べてしまう
施設内の計画他、これは、本当に本人の為なのだろうか？

・シニアカーで好きなものを買ってくる、楽しみ、生きがい

【まとめ】

今回のテーマ

《地域で暮らしにくさを感じる方の支援》

- ・自分の力では人を変えるということはいできない
- ・正しさを求めるとぶつかることもある
- ・本人のための支援 これは本当に本人のためなのか

甘いもの食べてしまう、数の制限等 職員→医師に指示されている、本人のためにダメ

本人→しあわせ 満足

ルールを緩める、お互いを譲り合う、余白を作る、ユーモア遊びの体験・思いをさせる

「福祉施設」 原点に戻る

- ・居場所としての場 ・困ったらうちにおいで ・気のすむまでいたらい い ・人は生産性だけじゃない
- ・優しくしよう ・色々な人がいていい ・色々な生き方があっていい ・人が大事にされる
- ・肯定される ・愛される ・排除しない ・困った人がいたら手を差し伸べる
- ・性別や障害や生産性などで区別したりしない

良い支援を行うためには、今回のような事例発表、経験談の座談会など聞く機会を作ることで支援の幅が広がる

「地域で暮らしにくい」は、支援次第で少しでも暮らしやすくなる。

職員の本人の為、本人の幸せ幸福度 温度差をどのように埋めるか

「自己決定」と掲げられている現在、支援の勉強は果てしない。